

おわりに

本報告書では、ひとつの省農薬ミカン園での病害虫・雑草発生と収量調査の結果をふまえて、省農薬栽培が技術的には十分に可能であることを立証してきた。しかし、これには多くの不十分さを含んでいる。この調査対象園での調査は現在も継続しており、今後はより精緻な自然科学的調査と相まって、社会学的、経済学的調査にも積極的に取り組んで行く必要性を感じている。たとえば、今回の分析では、生産物であるミカン果実の階級、品位、品質が収益に及ぼす影響については解析できていない。省農薬栽培による生産物は、一般の基準に基づくと、その階級や品位は市場に出回っているものよりランクが落ちることが多い。しかし、その分、目に見えない「安全性」を価値として備えている。すなわち、省農薬栽培による農産物の価格は、農協などの選別基準による価値を基準とすれば、低いランクに位置づけられるであろうが、「安全性」という別の価値基準による付加価値を加味して決定されている。ところが、この「安全性」は価格に換算することが難しい。そのために、価格決定については、省農薬農産物を取り扱う団体・グループによってさまざまな方式がとられている。生産者が納得して省農薬栽培を継続しえるか否かは、この価格決定に参加する消費者の意識に大きく規定されている。人々はどの程度の階級あるいは品質であれば、安全性と引き替えてもよいと思うのであろうか。この関係が本報告書では論及しえなかった点である。「自然との折り合いがついた農業」は技術論として展開されると同時に社会論として展開されなければ実現しえないということだけは確かなようである。われわれは、さまざまな課題に関して、その解決の糸口を提供してくれるこの省農薬園を、これからも維持していきたいと考えている。

First main paragraph of text, containing several lines of faint, illegible characters.

Second main paragraph of text, continuing the faint, illegible content.

Third main paragraph of text, with some faint structural markers.

Fourth main paragraph of text, appearing as a block of faint characters.

Fifth main paragraph of text, located near the bottom of the page.